

2026.01.09 相談支援部会議事録(14:00～15:50)

出席者：基幹センター(陶延・陶山・大崎・西山・高松・松尾)、アイクル(井上)、なるの実(福島・八島・永宮)、ゆうり(西岡・渡部・笹井)、加賀屋粉浜包括(大西)、S&A(玉井・北川・中武・夷子・荒木)、ライフケアシヴァ(竹下・河野)、COL(黒木・金田)、エミリア本町(瀬戸)、sora 訪問看護 ST(田ノ上)、E-Life(森田、福本、佐藤、金丸)、パレット(杉本)、ディーエンカレッジ大手前(岩川)、ももちゃんのおうち(渡利)、タイガースケアプラン(平石・時枝)、つながる場(中鳥)、ほっとナビ訪問看護 ST(岡崎・組地)、トラストルーチェ(北園)、区役所保健福祉課(平井)【順不同・敬称略】

【勉強会】

●テーマ：精神科病院からの地域移行について

講師：こころの健康センター安孫子氏、こころの相談ネットふうが松岡氏

●大阪市地域生活移行推進事業と地域移行支援について

<安孫子氏>

日本の精神保健医療福祉における「入院医療中心から地域生活中心へ」という

政策転換の流れと、その中での長期入院者の退院支援という課題について解説するものである。歴史的に収容が中心であった精神科医療の変革が求められる中、2004年の改革ビジョンを皮切りに長期入院者の地域移行が推進されてきた。国の統計データからは、精神疾患患者の総数が増加する一方（主に外来）、入院患者は減少しつつも高齢化が進行し、依然として1年以上の長期入院者が半数以上を占めるという課題が示された。特に、入院が長期化すると自宅への退院率が低下し、死亡や転院の割合が増加する厳しい現実がある。このような状況下で、症状が安定しているにもかかわらず退院意欲の低下や住まいの問題で退院できない患者層に対し、大阪市では「地域生活移行推進事業」といった独自の取り組みを通じて、外部の支援者が意欲喚起を行い、国の「地域移行支援」サービスへと繋げている。また、入院を拒否するなどの困難ケースに対しては、各区の保健福祉センターにいる相談員（保健師や精神保健福祉相談員）が人権に配慮しつつ、関係機関と連携して対応する体制が整っていることにも言及された。

<松岡氏>

地域移行支援や依存症支援に関する取り組みについての実践報告である。社会的入院からの退院促進を目指す「地域移行推進事業」の背景と具体的な支援プロセス、ピアサポーターとの連携、そして依存症支援における「病気」として

の認識や「ハームリダクション」というアプローチの重要性が、経験や具体的な事例を基に詳しく解説された。支援の核心は、性急に結果を求めるのではなく、食事を共にするなどして信頼関係を築き、本人の意思を尊重しながら「つながり」を通じて支えることにありと強調されている。

<次回開催>

2026 年 2 月 13 日(金)区役所 3 階